

教育委員会だより

発行日 平成25年7月1日
編集・発行 葉山町教育委員会教育総務課
〒240-0112 三浦郡葉山町堀内2050-9
TEL. 046(876)1111
FAX. 046(876)1861

いそぎく

第243号

☆—学校は、—☆

四月五日、葉山町立小・中学校で、入学式が行われました。本年度の新生は、小学校四校で二百八十七名、中学校二校で二百四十八名でした。

平成25年度 児童生徒数 (新入生の人数)

葉山小学校	724名 (103名)
上山口小学校	163名 (24名)
長柄小学校	394名 (74名)
一色小学校	515名 (86名)
葉山中学校	517名 (165名)
南郷中学校	264名 (83名)
計	2577名 (535名)

各学校では、学校教育目標を達成するため様々な教育活動が展開されています。



学校教育目標

葉山小学校

自分で考え

行動する子

仲良くする子

上山口小学校

かしこく

なかよく

たくましく

長柄小学校

自分も人も

大切にする子ども

おもいやり

チャレンジ

しなやかな心

一色小学校

仲間と共に生きる子

思いやりのある子

自ら考え学習する子

みんなと協力して

仕事をする子

葉山中学校

かしこく

やさしく

たくましく

南郷中学校

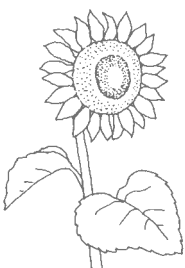
「自立」と「共生」



学力向上に向けて

平成二十年度より、神奈川県では、児童・生徒の学力向上に向けて、「かながわ学びづくり」推進地域研究委託事業が行われています。葉山町では、今年度、推進地域の指定を受け、次のような学力の向上を図ることを目的に研究に取り組んでまいります。

- 基礎的・基本的な知識・技能
- これらを活用して課題を解決するための必要な思考力・判断力・表現力
- 主体的に学習に取り組む態度



輝け 葉山の子どもたち

第四十六回(平成二十四年度)神奈川県青少年科学作文コンクールにおいて、総数百五十五点の中から、上小學校四年生(当時)の渡邊一登さんの「アメンボはあめのおいがするのかが、神奈川県知事賞に選ばれました。

『アメンボはあめのおいがするのかが』

渡邊 一登

ぼくはこの夏アメンボの研究をした。図かんのアメンボのページに「アメンボという名前は、あめのおいが出すことからつけられた」と書いてあって、おもしろいなと思ったからだ。ぼくの家の近くには、アメンボがたくさんいる池がある。そこでアメンボは本当にあめのおいがするのかが、くわしく調べてみることにした。

まず、おいを調べる前にアメンボについて調べた。アメンボの種類は、ナミアメンボ・ヒメアメンボ・シママメンボなどがある。性別の見分け方は体のうらを見ると分かる。五月の四日間、十八匹のアメンボのおいをかいた。ミルクティー・こんぶのつくだに、おいなしの三種類だった。性別による違いはなかった。七月二十五日、もつとたくさんのアメンボで、近所の川に場所を変え、四十六匹のアメンボをとった。十八匹がこんぶのつくだにの

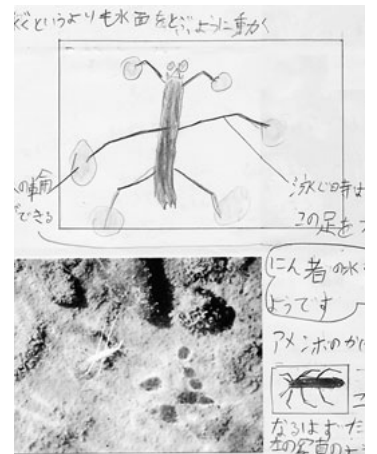
においだった。性別の違いはなく、小さなアメンボはにおがないことが分かかった。二十六日、六匹のアメンボをつかまえた。体のどの部分からにおいが出ているのだろうか。ヤクルトの細いストローを体の色々な部分に近付けて調べた。においの出所は全て(むね)だった。二十七日、二匹のアメンボを調べた。ナミアメンボのオスでこんぶ

のつくだにのにおいだった。においをかいだ後、アメンボを水道水に入れておいた。いつもは水そうに池の水を入れて持ち帰るのだが、この日は水そうを忘れ、たまたま網に入れて持ち帰ったからだ。すると、翌朝アメンボのにおいはなくなっていた。なぜだろう。アメンボのにおいのひみつは(すみかの水)に関係があるのではないかと仮説を立てた。二十八日、四匹のアメンボを池の水と水道水に入れ、においの変化を調べた。水道水の方だけにおいがなくなった。二十九日、前日に池の水に入れておいたアメンボを一匹ずつ水道水に入れ、においの変化を調べた。二匹共ににおいがなくなった。水道水ににおいを消す力があるとも考えられる。そこで、他の種類の水でも実験してみる必要があると考えた。八月二日、川でとったアメンボを四種類の水に入れた。すみかの水・水道水・ミネラル水・池の水に入れ、においの変化をみた。その結果、池の水以外は、においがなくなった。予想外の展開だ。さら

に実験を繰り返した。(中略)

今までの実験から①においには種類がある②においを出す部分は(むね)③性別でにおいの違いはない④小さなアメンボはにおいを出さない⑤すみかの水はにおいに関係ない⑥においを出す時と出さない時があるということが分かった(中略)

びっくりしたことが起きた。いろいろな液体にアメンボを入れた実験でアメンボがおぼれるという事件が発生した。泳ぎの得意なアメンボが牛乳の中でおぼれたのだ。二十日、アメンボはおぼれるのかについて確かめた。コーヒー・牛乳などにアメンボを入れてみた。サイダーをのぞいたどの液体でもアメンボはおぼれた。なぜアメンボは浮くのかを学校の理科の先生に聞いてみた。アメンボが浮く条件は①足が作られるくぼみにより浮力が働く②足の先にはえたくさんの細かい毛が水をはじく③足から油を出し、水をはじくとい



ては、アメンボの浮き方を川で観察すると確かに足に水の輪ができて、まるで忍者の水ぐもりのようである。アメンボの足をルーペで見ると細かい毛がたくさんはえていた。足から油を出しているかどうかは、母の油取り紙を使って実験した。油取り紙でアメンボの足の先をふいて水に入れたらアメンボは沈んだ。少したつて足をスリスリした。その後、アメンボはいつものように動き始めた。三つの条件がうまく働かなくなつて、おぼれてしまうのだ。

もう一つ気になった事は、アメンボが住む水環境のことだ。コケの生えたくさい川でもアメンボは住んでいた。アメンボにとつてきれいな水って何だろう。神奈川県ホームページで調べてみたら、川のごちの理由は洗剤と油で、この二つを減らして川を守りましょうと書いてあった。(中略)

アメンボのにおいについて研究してはいたが、(アメンボがおぼれること)を発見した。そしてアメンボが浮く仕組みを知ることができた。研究がどんどん広がっていくことがとても楽しかった。研究では百九匹のアメンボを観察した。そのうちの何匹かを死なせてしまい、かわいそうなことをしてしまった。水に洗剤や油が混ざるとアメンボはおぼれてしまう。私たちは川や池にできるだけ洗剤や油が流れないように工夫して、アメンボの住みやすい環境を守っていききたいと思う。

小中学校の連携に

取り組んでいます

「わかる！算数教室」を開催

現在葉山町では、小学校六年生が円滑に中学校教育に移行していくために二名の町費教員を配置しています。

この教員は、二、三学期に小学校で、翌年の一学期に中学校で指導にあたります。小学校での様子を事前に把握し、中学校の教員として新入生を迎えます。中学生になった新たな気持ちも考慮しつつ、中学校の先生方に生徒理解の援助をしたり、勉強の不安を受け止めて授業支援を行ったりしています。また、希望に応じて補充学習を行うこともあります。生徒にとっては、小学校で世話になった先生からまた指導を受けることができ、安心にもつながっています。

配置教員も二年目となり、小中の連携のあり方にも経験を積んでまいりました。

教科としては、算数・数学を中心に、小中連携の活動を行っています。

葉山町における小中学校九年間の児童生徒の育ちが実り大きなものになるよう、小学校、中学校を見通した教育活動を推進してまいります。

また、中学校に進学する前に、少しでも小学校算数の復習をお手伝いする目的で、「わかる！算数教室」を前述の町費教員と葉山町教育研究所員によ

り開催いたしました。一色小学校の新館にて、午前中の日程で、三月二十五日～二十九日の五日間行い、参加者は三十三名でした。

教材は小学校六年生の教科書の復習問題を中心として、中学校でつまずきそうな範囲を想定し、様々な工夫をして問題を作成しました。参加した児童には少し易しい部分もあったようですが、「小学校算数の忘れていたところを思い出せた」との感想もありました。今後に向け、時間的、人的制約があるため、どうしても参加者数に制限がありますが、教材や授業方法に改善を加え、次回も充実した教室にできるよう考えています。



葉山町教育研究所主催「わかる！算数教室」

「葉山だからできる

豊かな学びにむかって」

葉山小学校 校長 加藤 雄司



四月一日付で葉山小学校に着任いたしました加藤雄司と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。私は平成二年に海老名市から本町に異動して参りました。葉山中学校で十三年勤務した後、町教育委員会学校教育課に転じて十年行政を経験し、併せて二十三年間葉山町の学校教育に携わらせていただきました。

葉山中学校で勤務していた頃を振り返ってみますと、生徒たちとの数々の思い出が蘇って参ります。多感な年頃で手のかかることも多々ありましたが、みな情の通じる人懐こい生徒たちでした。学習にも部活・行事にも精力的に取り組み、活力溢れる日々をともに過ごしていたように記憶しています。そんな彼らが立派に成長され、今度は本校の保護者や職員として再会できたのも、長年葉山町で勤務させていただいたおかげと感謝しております。

教育委員会在職時には、学校ではできない貴重な経験と様々な出逢いがあり、大切な財産を得ることができました。

た。中でも大きな経験となったのは、町の基本的な教育計画である「葉山町教育総合プラン」の策定及び施行に関わる仕事でした。「教育は百年の計」とよく言われますが、十年、二十年先を見据えて葉山町独自の教育計画を創出しようというものでした。策定委員会と三部会での協議や町民の方々を対象にしたアンケート調査の実施など、

策定作業は実に三年余りに及びました。策定の過程でしばしば論議されたのが「葉山らしさとは何か？」というテーマでした。「海や里山など豊かな自然に恵まれた風土」「この地を愛してやまない多彩な人々により形成された文化」（ある方は「一種箱庭のような文化圏」と表現されました。）などが当時の代表的な見解でした。それは今も大きく異なることはないと思います。

本校は自然に恵まれた環境と葉山特有の文化の中で、九十年近い歴史を刻んで参りました。これまで多くの方々が営々と築き上げてこられた伝統を大切に継承するとともに、より良い学校づくりに専念することが私の使命だと考えております。子どもたちが毎日安心して楽しく生活できる学校、更には「葉山らしさ」を諸活動に生かした魅力ある学校を目指して全職員で取り組んで参ります。これまでと変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「葉山とともじ」

葉山中学校 教頭 山本 郁夫



この度、四月一日に葉山中学校の教頭を拝命いたしました山本郁夫と申します。

昨年度は、本校で一年生の社会科を担当していました。途中、三年間の葉山町教育委員会への出向がありました。今年で本校は十三年目となり、教員生活の半分近くをこの学校で過ごしたことになります。

私は葉山生まれ、葉山育ちで、葉山中学校を卒業しました。また、教育実習も本校で実施させていただきました。その母校において教壇に立つことができ、生徒たちと共に、母校の校歌を歌えるということは、本当に幸せなことだと思っています。

青い海と緑の山という恵まれた自然環境のもとで、私が中学生の時、大らかでのびのびとした雰囲気をもつ生徒が多かった気がしますが、それは今の生徒も同じように思えます。葉山という地域には、子どもが成長していくうえでとても大切なものがあると改めて実感しています。

最近の学校の様子を見ていて思い浮かぶ言葉は、「文武両道」という文字です。学習面では、どのクラスもチャイムが鳴る前に全員が座っていて、授業に対して真剣なまなざしで取り組んでいます。また、部活動に対しても、一生懸命に練習に励んでいる姿が、随所で見られます。さらに、体育祭や合唱コンクールなどの行事に対して、前向きに取り組む姿からは、清しさを感じます。

長年、葉山中学校を見てきましたが、最近一番変わったことは、挨拶です。来校された高校の先生や地域の方などから、生徒が大きな声で挨拶をしてくれます、というお褒めの言葉を、よくいただきます。元氣な挨拶が飛び交う学校という、この素晴らしい伝統をこれからも引き継いでいってほしいと願っています。

今後、さらによりよい学校づくりを展開していくためには、地域・家庭の皆様のご理解・ご協力が不可欠なものと感じております。ぜひ、今後ともより一層のお力添えを賜わりたく存じます。

卒業生、在校生、そして私にとってかけがえのない母校である葉山中学校が、地域に愛される学校となるよう、私自身、微力ではありますが、精一杯がんばっていききたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

「葉山町に赴任して」

山口小学校 教頭 長島 智仁



本年度、山口小学校に赴任いたしました長島智仁と申します。昨年度まで横須賀市の野比東小学校に勤務しておりましたが、このたび縁あって葉山町の小学校で働くことになりました。どうぞよろしく願いたします。

私は初任の頃、子どもたちにサッカーの指導をしていた時期があり、試合のため何度となく山口小学校を訪れたことがあります。その時は、自分がこの小学校に勤めるなんて思いもありませんでしたが、四月一日に山口小学校の門をくぐったとき、あらためて「縁」というものを感じ、身の引き締まる思いがいたしました。

山口小学校は、各学年ともクラス、全校生徒一六三名の落ち着いた学校です。保護者の皆様のご協力や地域の方々の温かいご支援もあり、子どもたちがすくすくと育っているという印象を受けました。また、校庭がとても広く、休み時間は、サッカーやおにごっこ、一輪車遊びなど、のびのびと元氣よく過ごす子どもたちの姿が見られ

ます。広々とした畑や花壇、たくさんのお木々もあり、自然環境にも恵まれています。

満開の桜に迎えられ、そんな山口小学校の門をくぐってからふた月がたちました。同じ教頭職でも横須賀市と葉山町では仕事の内容に少し違いがありました。最近やっと仕事にも慣れ、毎朝廊下に立って、子どもたちを迎えることができるようになりました。「おはようございます。きのうね〇〇さん」と：」など短い言葉のキャッチボールですが、挨拶から子どもたちのその日の様子が少しずつわかるようになってきました。早く全校の子どもたちの名前を覚えようと頑張っています。ともすると一日中、事務仕事に追われてしまうことも少なくない教頭職ですが、だからこそ、時間を見つけて子どもたちと積極的に関わる機会をつくり、様子をしっかりと見とっていき、学校運営に生かしていきたいと思います。

「教頭は職員室の担任」と言われることがあります。より良い教育を行うためには、より良い学校づくりが必要です。未来を担っていく健全な子どもたちを育てるために、山口小学校の教職員が互いに信頼感と連帯感を持って生き生きと仕事ができるように、職員室の担任として厳しさと温かさを保持して仕事をしていきたいと考えています。どうぞよろしく願いたします。